

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.176

2016年12月19日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

地域の産業を身近なものに 社会科教育研究会 授業研究会

単元は「工業生産とわたしたちの暮らし～淡路線香～」でした。冒頭、実際に淡路の線香を提示し、「これ何かわかる？」という問いかけから始まりました。子どもたちからはすぐに「線香」と答えが返ってきましたが、そこから「なぜ、淡路市（旧一宮町）では線香づくりが盛んになったのだろう？」という疑問を出発点に、自分の仮説（自分の考え）を出し合い、なぜそう思うのか？なぜそう考えるのか？授業者の自作資料から見つけてみようとするんでいきました。子どもたちからは、「昔の人が作っていたから」「材料がいっぱいあった」「気温が合っている」「輸出しやすい」などの仮説が発表されました。その仮説を確かめるためにはどんな資料があればよいかを問うと、子どもたちからは、「昔の人はどんな仕事をしていたか」「線香（お香）の材料」などの意見が出され、熱心に資料集を調べていました。その後、子どもたちから「線香はどうやって作るの？」という質問が出され、これはクラス全体の疑問として解決しようと黒板に書いて示されました（この単元の後半で、線香の工場への見学が予定されている）。



子どもたちは、普段とは違って多くの先生方が見守る中での授業に緊張している様子でしたが、資料集を見ながら仮説を考えたり、仮説を確かめる根拠を資料の中で見つけようとしたりと意欲的に調べ学習にとりこんでいました。

授業後の研究会では、授業者から、今回の資料づくりで感じたこと、淡路線香が独自の技術をもとに海外で受け入れられるような商品開発をしていることなども含めて、子どもたちが地域の産業に誇りを持てるような工夫をしたいというこの単元にかける思いが報告されました。参加した研究所員からは「意見が出ないところで我慢して発表を待つことも大切では」「資料の出典や整合性に気をつけたい」「この授業にむけて資料集を作られたことが素晴らしい。今後も子どもたちが意欲的に探求し続けられる工夫を」等のアドバイスがあり、また、淡路島の気象条件（特に温度・天気・風・湿度等のどの条件が線香づくりに影響を及ぼしたか）等について話し合いがなされました。

最後に授業者から、アドバイスをいただいたことをもとに、子どもたちにとって地域の産業をより身近なものに、また誇りを持てるものにしていきたいと今後への更なる意欲が示され、授業研究会を終えました。